

下米田小学校の実践

研究主題

学習に主体的に取り組み、いきいきと学び合う子の育成

- 1 学力向上拠点形成事業実施計画書
- 2 生きて働く真の学力をつけるための授業改革
- 3 実践の紹介
 - (1) 少人数指導を取り入れた学習過程の工夫
 - ① ～5年 算数「少数でわる計算」～
 - ② 授業の実際
 - (2) 「聞く」「話す」「伝え合う」活動を基盤にした指導方法の工夫
英語活動のあり方
 - ① 学習指導案 ～5年 英語活動「電話でオーダー」
 - ② 授業の実際
- 4 3年間の取り組みの成果と課題



<中核的課題> 美濃加茂教育21「FROM0歳プラン」

～生きてはたらく真の学力をつけるための授業改革～

<全市的課題>

<具体的実践内容>

問題解決学習（自らが課題をみつけ、その課題を自らが解決する力の育成）の推進

平成17・18年度「学習状況調査」「学習意識調査」の分析を受けた工夫改善を進める

「磨きあう授業作り」→授業改革

- ① 基礎・基本の徹底と確かな学力の育成
- ② 個性の一層の伸長
- ③ 各教科における「学び方」の習得

推進校名	山之上小	協力校名	古井小学校・下米田小学校・東中学校
共通的研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本の定着 ・ 指導方法の工夫改善 ・ 少人数指導における学習過程、 		
問題解決学習での位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題追究に必要な基礎的基本的な知識の習得 		
学力向上に関わっての研究テーマ	<p>学習に主体的に取り組み、いきいきと学び合う子の育成</p> <p>～算数・英語活動を通して～</p>		
研究テーマ設定の理由 (県の学習状況調査及び市の学習意識調査を受けて)	<p>県の学習状況調査の結果から、文章を読み取る力が弱いということがわかった。算数では基礎的な技能に関することはできているが、分数や小数の意味・文章題等の問題の意図を理解するという面において弱さが見られた。そこで、算数ではお互いが学び合う姿・課題に向かって追求していく姿を高めるためにこのテーマを設定した。</p>		
研究推進の具体的計画 (明らかにしたいこと)	<ul style="list-style-type: none"> ① 少人数指導を取り入れた学習過程の工夫 ② 「聞く」「話す」「伝え合う」活動を基盤にした指導方法の工夫 		

2 生きてはたらく真の学力をつけるための授業改革

学校の教育目標

一人一人を大切に いきいきとした子の育成



研究主題

学習に主体的に取り組み、いきいきと学び合う子の育成

下米田小学校4つの授業改善

- ・ 「話すこと・聞くこと」の指導の徹底
- ・ 国語科において伝え合う力の育成を意図した学習過程の工夫
- ・ 英語活動におけるコミュニケーション能力の育成
- ・ 確かな学力の向上をめざし、算数科での少人数指導の実施

実践のキーワード

～聞く力を鍛え、表現する力に磨きを～

聞く力を鍛える



全校朝会の場で

表現力を磨く



国語の授業で



コミュニケーション能力の育成

確かな学力の向上

英語活動の場で



指導方法の工夫改善

少人数指導の場で



算数でのペア交流と全体交流



発展問題に挑戦



3 実践の紹介

(1) 少人数指導を取り入れた学習過程の工夫

① 学習指導案 ～5年 算数「少数でわる計算」～

2. 単元名 小数でわる計算 (全13時間)

3. 指導の立場

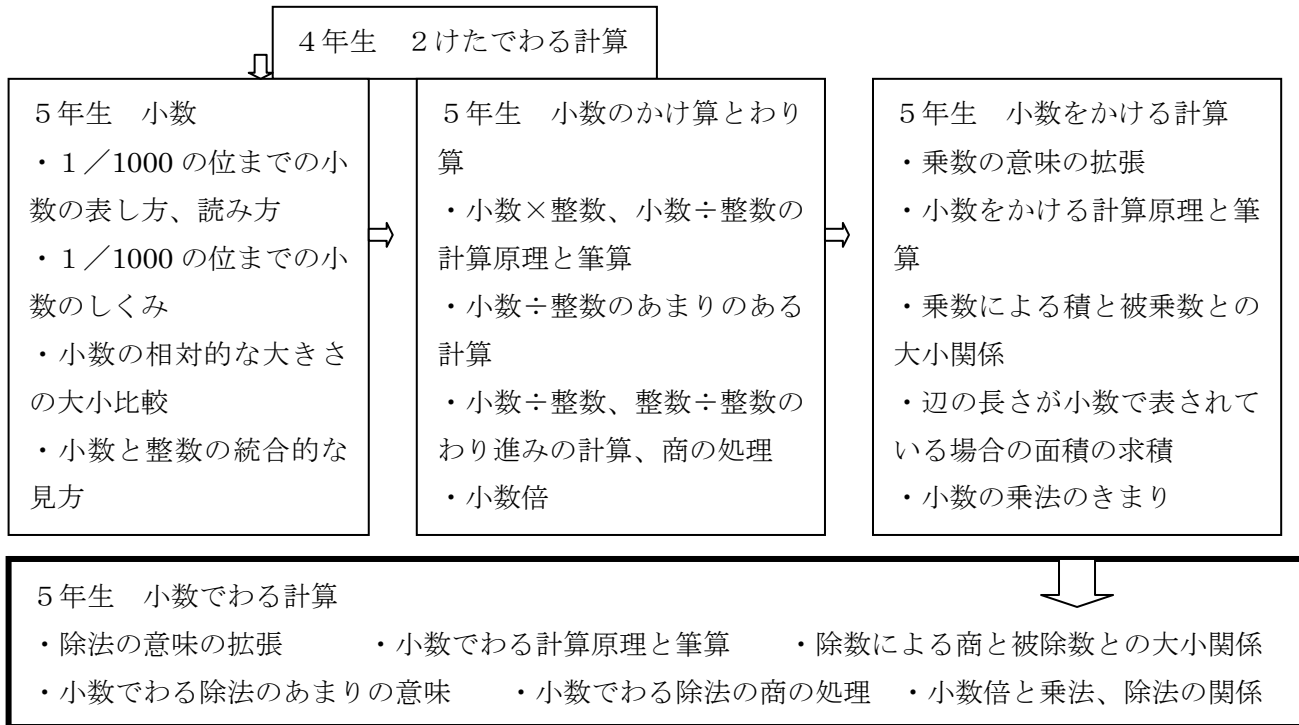
(1) 単元について

本単元の主なねらいは、除法の意味の拡張や筆算形式を理解することである。つまり、除数が小数の場合でも、除数が整数の場合と同様に除法が用いられることや、計算方法については整数でわる除法に帰着すれば既習の計算方法が使えることなどを理解させていく。

本単元も前単元と同様に、数直線などを用いて、整数÷小数、小数÷小数と順を追って除法の意味の拡張をしていくとともに、計算方法を考えさせていく。また、ここでもそれらの計算方法をもとに筆算のしかたを理解させ、除数 p を $p > 1$ 、 $p < 1$ に分類し、商と被除数との大小関係をまとめさせていく。

さらに、何倍かを表す数が小数の場合でも乗法が適用できることや、何倍かを求めたり、もとにする量を求めたりするときにも小数の除法が適用できることを扱い、小数倍と関連づけながら乗法の相互関係の理解を深めさせていく。

(2) 内容の前後関係



(3) 本時について

前時では、整数÷帯小数 ($96 \div 2.4$) で、除数が小数でも除法の式に表すことができると、その計算方法を既習の整数でわる計算に帰着させて見出すことを初めて学習した。

本時は、『スーパーにし』では、リボン 0.8m の代金が 48 円でした。このリボン 1m の値段はいくらでしょう。』という具体的な場面を通して $4.8 \div 0.8$ (整数÷純小数) を扱う。まず、立式の段階では、前時の問題と数量関係が同じなので「 $4.8 \div 0.8$ 」が成り立つことを確認し、この解き方を考える。これも、 0.1 のいくつか分と考えたり、被除数と除数の両方に 10 をかけたりして、整数のわり算に帰着させていきたい。前時にも、除数被除数をともに 10 倍しても商が変わらないことを使って商を求めたが、前単元「小数をかける計算」では、「乗数に 10 をかけて計算したら、積を 10 で割る」ことを繰り返し学習してきたので、本時でも、商を 10 で割らなくてはいけないと考える児童も出てくると考えられる。また、本時で初めて、商が被除数より大きくなる。これまでの除法では、商は必ず被除数より小さくなっていったため、計算の結果にとまどいを示す児童もいると予想される。問題の題意にもどったり、数直線で確かめたりして 0.8m の値段の 48 円より大きくなることを理解させたい。

(4) 児童の実態

男子20名女子15名、合計35名を学級の生活グループで2つに分けて少人数指導を行っている。本単元は、19名が201教室で学習している。

個人追求では、一人一人が課題に向かって前向きに取り組み、自分の考えをノートに書こうと努力することができるが、自信がないとなかなか自分から取りかかれぬ児童が3名、気分が左右されやすい児童が2名ほどいる。考えを説明する場面では、進んで発表できる児童となかなかできない児童に分かれてしまう。そこで、ペア交流で話すことで自信を持たせる様にしたり、ホワイトボードに書いて説明をするときに意図的に指名し、なるべくいろいろな子に前に出て説明することを経験させたりしてきた。しかし、少人数とは言え、進んで発表できる児童は限られているのが課題である。

既習のわり算の内容で準備テストを行った。(別紙)4年生での既習内容であるわり算の性質については、2問とも正解している児童は7名。筆算では、商の小数点間違い、余りの小数点間違いひき算のミスが多かった。児童間の力の差も大きい。1単位時間の中での練習量を多くすることはなかなか無理な状況であり、練習をより多く繰り返して行うなどの対応を考えていく必要がある。

(5) 研究にかかわって 学習に主体的に取り組み、いきいきと学び合う子の育成

まず自分の考えがもてることで、伝えたい、分かってほしいという意欲がわいてくる。そのために、個人追求では、解決の方法の見通しを確認したり、既習事項を掲示して活用できるようにしたりしてきた。

交流の場では、発言者は、「～ね。」「ここまでは分かりますか?」など、相手に問いかけ、聞き手はそれに対して「同じ考え方です。」「よく分かります。」「もう一度言って下さい。」など問いかけに答えることで相手と関わり合いながら交流することになると考える。特に、反応については、「反応することで、自分も授業に参加することになり全員が参加する授業を作ることになること、話を聞いていないと反応はできないから、集中力にもつながること」これらのことから自分の素直な言葉で反応するように勧めてきた。そのためにも自分の素直な思いが話せる雰囲気を作り出すことが大切だと考えるが、まだまだ授業の中で、お互いが反応し合い、関わり合い、学び合い、深め合う姿には到達していない。間違えたことがより正しい理解につながることや、分からないときには「分からない。」と素直に言える雰囲気を作っていくことが課題である。

授業の評価の段階で、まとめ②としてノートに文章によるふりかえりを位置づけ、自己の高まりを認識させたり、仲間と学んだよさを広げさせたりしたいと考えている。記述された言葉からは、「始めは間違えていたけれど、〇〇さんの発表を聞いていて、よく分かった。」「〇〇さんの考え方は思いつかなかったけれど、早くて簡単で分かりやすいと思った。」など、仲間の考えから深められたことが書かれていることが増えてきた。

単元指導目標

学習指導要領には、次のように記述してある。

[A 数と計算] A(3) 小数の乗法、除法

(3) 小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の意味について理解すること。

ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。

この内容から、本単元の目標は、次のようである。

- (2) 小数でわることの意味を理解し、除法の意味の拡張に関心を深め、有効に活用しようとする意欲をもつ。
- (3) 除法の意味を拡張し、除数が小数の場合でも、除法が用いられることを数直線などを用いて理解し、立式することができる。
- (4) 除数が小数の場合の計算原理や方法を理解し、筆算で計算することができる。
- (5) 小数の除法について、除数の大きさから商と被除数の大小関係を判断することができる。
- (6) 小数÷小数の除法におけるあまりの意味を理解し、商とあまりを求めることができる。
- (7) 小数÷小数の商を四捨五入して概数で求めることができる。
- (8) ある数量の小数倍の大きさを求めるときに、小数の乗法が適用されることを理解する。
- (9) 小数倍やもとにする量を求めるときに、小数の除法が適用されることを理解する。

② 授業の実際

個人追求の後の、ペア交流



発展問題に挑戦



ボードに自分の考えを書き、全体交流で説明



算数の学習の仕方を少人数教室に掲示



前時の学習内容をボードで掲示

(2) 「聞く」「話す」「伝え合う」活動を基盤にした指導方法の工夫

① 学習指導案 ～5年 英語活動 「電話でオーダー」～

1. 題材名 「電話でオーダー」

2. 指導にあたって

(1) 題材について

5年生の総合的な学習のテーマは、米作り活動を通して、自然の豊かさを感じ、地域の方と交流することで、共に生きていく態度を養うことを目的としている。本題材「電話でオーダー」は、日常生活において経験しやすく身近なシチュエーションとして、「電話をかける」という場での活動を設定した。電話の取り組みでは、電話の対応の仕方や、注文の取り方など、相手の顔が見えない状況で、その相手の気持ちを考えた会話をしなければならない。人とのコミュニケーションを取る上で、相手を尊重するという態度やマナー、気持ちを育てるためにはとてもよい活動の場である。そして、仲間と共に生きていく態度を養うことのできる題材と考えた。言語材料は、児童にとって興味をひかれるピザの注文である。電話でのピザの注文の取り方、答え方の会話は、これまでに学習してきた会話文である。自分達のピザ屋を開店することで意欲を高め、楽しみながら自然に話すことができると考える。

(2) 児童の実態 (男子24名 女子14名 合計38名)

明るく活動的な児童の多い学級である。体を動かすことが好きで、活発な児童が多い。しかし、高学年になり、「恥ずかしい」という気持ちが強くなってきたためか、自分を素直に表現できない児童もいる。また、ペア活動する時には特定の仲間だけという児童も増えてきた。

「話すこと」に関しては、相手に聞こえる声で、最後まではっきりと話せる子が多い。答えがはっきりしている問いや話すことが決まっていることに対しては多くの子が挙手をするようになってきた。しかし、気持ちを想像したり、自分の考えを発表したりするような場では、消極的になってしまったり挙手が急に減ってしまったり、いつも特定の児童が話すことになってしまう。

英語活動では、歌やゲームなどを取り入れることが多いため、楽しむことに一生懸命になりすぎてしまったり、けじめのない姿が見られることがしばしばであった。朝の会や帰りの会、他教科でも、けじめのつけられない姿が気になった。基本的な学習ルールを守り、全員が参加する楽しい英語活動ができればと願いこだわって指導してきたが、課題は残る。

- ① 声の大きさを考えて話すこと。
- ② 人が話すときは、他事をしないで目を見て聞くこと。
- ③ 仲良く、楽しく、相手の気持ちを考えてゲームをしたり歌を歌ったりすること。
- ④ できるだけたくさんの仲間と活動すること。

これらのことを守ることが、仲間を大切にすることであり、本当の楽しさにつながることを話してきている。

(3) 指導にあたって

ペア活動では、生活班の中でペアをつくり、グループ活動では生活班で活動し、会話の練習をすることで、仲間との関わりが仲良く楽しくできるようにした。

本時では、1対1の活動を計画している。店の人と客が電話を通して相手を意識し、注文を聞いたり答えたりして、楽しくたくさんピザを注文することができることを目指したい。相手に伝えるために、電話を使っているのだから、クリアボイスを心がけることができるように支援していきたい。また、わからない時には、HRTやALTに「Help」といえる姿を認めていきたい。

<スキット>

言語材料は、4年生までの英語活動で扱ってきたものばかりである。電話という設定は初めてであるが、これまでに行ってきた会話を組み合わせ、電話を使ったピザの注文ができるようにしてきた。

会話文は、「Hello.」「Can I help you?」「Your name please.」「My name is ~.」「Your address please.」「I live in ~.」

「OK.」「That will be 800yen.」「Thank you.」などのように、これまで学習した表現ではあるが、組み合わせること
で児童にとって難しい会話文となっている。そこで、チャンツを使ってリズムにのって言えるようにしてきた。名前や
住所、値段などのように、その場に応じて自分の場合に変えていかなければならない部分は、何度も練習することで慣
れさせるようにしてきた。また、この通りに言えなくても、会話に必要な単語が出てくるようにと、ヒントコーナーを
作って、学習の足場となるようにしてきた。

<活動>

たくさんの会話文が出てくるので、携帯電話を実際に持って雰囲気を出したり、注文ビンゴで楽しんだりしながら、
言葉やスキットを使うようにした。ALT、HRT、クラスで役割をロールプレイングしながら電話でピザを注文する
シチュエーションの中での必然性を持たせてきた。

3 研究テーマに関わって

学校教育目標

ひとりひとりを大切に いきいきとした子の育成
よく考える子 思いやりのある子 強いからだの子

研究主題

学習に主体的に取り組み、いきいきと学び合う子の育成
～算数科・英語活動を通して～

研究仮説

- (1) 「話す・聞く・話し合う」力を育成することを意図し、伝え合いの基礎づくりをもとにして国語科における学習過程や指導援助の工夫をすれば、自信を持って、自分の考えを伝え合い、いきいきと学び合う子を育てることができる。
- (2) 『話すこと・聞くこと』の指導を単に国語科だけではなく、他の領域（総合的な学習の時間・英語活動）などに関連づけて指導すれば、伝え合う力が高まり、いきいきと学び合う子を育てることができる。

研究内容

- (1) 国語科における伝え合う力の育成を意図した学習過程の工夫
 - ① 単元における学習過程の工夫・・・題材構成の工夫
 - ② 1 単位時間の学習過程の工夫
- (2) 国語科『話す・聞く』と他の領域とを関連づけた指導の充実
 - ① 英語活動の充実
 - ② 話す・聞く・話し合う力を計画的に育てるための『話し方名人・聞き方名人』ステップ表の作成と実践
 - ③ 伝え合いの基盤となる朝の会における『スピーチ』

研究仮説（2）

『話すこと・聞くこと』の指導を単に国語科だけではなく、他の領域（総合的な学習の時間・英語活動）などに関連づけて指導すれば、伝え合う力が高まり、いきいきと学び合う子を育てることができる。

英語活動を充実させるために

①活動の意欲を持続させるための手立て

「電話で注文をする」というシチュエーションでの会話を、「ごっこ遊び」として、店の人や客という役になりきることで意欲を喚起していく。

②伝え合う力を高めるために手立て

活動方法の工夫・・・「客」→「店」という場で、電話を使って伝え合う活動を通して、自分の伝えたいことが伝わることの楽しさや喜びを味わわせていく。
相互評価・・・クリアボイス（はっきりした声で）を意識して活動できるように、仲間同士で互いに評価し合いながら、できていたらシールをはっていく。
（仲間のがんばりと自分のがんばりを認め合う。）

③生き生きと学びあうための手立て

多くのピザ店を設定・・・多くの仲間と会話できる機会を持つことができる。仲間の良いところを見つけ、学び合うことができると考える。
電話での伝え合い活動・・・相手意識や目的意識を持って仲間に伝えようとクリアボイスにも気をつけながら活動する姿を目指す。
全体での評価・・・意欲的にピザを注文しようとする姿を全体の場で認め広めていく。

4. 題材計画

(1) 目標 電話を使用する場面を設定し、お客として食べたいピザを注文したり、お店として注文を正しく聞き取ったりすることができる。

(2) 本題材の評価の観点について

- ・ 電話での英語の会話を覚えて、ゲームやピザ屋さんで楽しんで使うことができる。
- ・ お互いの会話を聞き合って、注文したり正しく聞き取ったりすることができる。

	1	2	3・4	5
願 い	・友達と遊ぶ約束をするために電話をかけたいな。	・電話をかけて、本人がいない時には何て言うのかな？	・自分が食べたいピザを注文してみたいな。 ・電話の注文の仕方を知りたいな。	・自分の店をオープンして、お店の役やお客の役をやってみたいな。
目 標	友達と遊ぶ約束をするために電話をかけ、楽しく電話で会話することができる。	電話をかけた時、本人がいない場合のやりとりを知り、その会話を楽しむことができる。	自分が食べたいピザを電話で注文する会話を聞き、お客さんとお店の人とのやりとりができる	自分が食べたいピザを電話で注文する活動を通して、お店の人とのやりとりを楽しむことができる。
主 な 活 動	① 挨拶 ② 歌♪it's a small world ③ 電話チャンツ ④ ゲーム ⑤ 挨拶	① 挨拶 ② 歌♪it's a small world ③ 電話チャンツ ④ ゲーム ⑤ 挨拶	① 挨拶 ② 歌♪it's a small world ③ オーダーチャンツ ④ ゲーム ⑤ 挨拶	① 挨拶 ② 歌♪it's a small world ③ オーダーチャンツ ④ ゲーム ⑤ 挨拶

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">言語材料</p>	<p>Hello. Hello. This is ~. This is ~. <u>Can you play soccer now?</u> Yes. Ok. Good-bye. Bye.</p>	<p>Hello. Hello. This is ~. This is ~. <u>Is ~ there?</u> I'm sorry. ~ is out. Thank you. Good-bye. Good-bye.</p>	<p>Hello. This is INAZUMA's pizza. <u>Can I help you?</u> Yes. A cheese pizza please. Your name please. My name is ~. Your address please. I live in ~. Thank you. Thank you.</p>	<p>Hello. This is INAZUMA's pizza. <u>Can I help you?</u> Yes. (a cheese) pizza please. Your name please. My name is ~. Your address please. I live in ~ OK. That will be 800yen. Yes. Thank you. Thank you.</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>・電話で友達と約束をするための会話をはっきりとすることができる。</p>	<p>・本人がいない時の電話でのやり取りをはっきりとすることができる。</p>	<p>・電話でのやりとりを通して、ピザを注文したり、聞いたりすることができる。</p>	<p>・電話でのピザの注文を、クリアボイスで話すことができる。</p>

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・インイングリッシュで、最初から最後までピザの注文のやり取りを楽しむことができる。
- ・クリアボイスで、電話での会話をするができる。

(2) 準備するもの 英語の歌のCD・携帯電話（一人一台）・メニューのカード・ピザ屋で使う道具など

(3) 指導過程

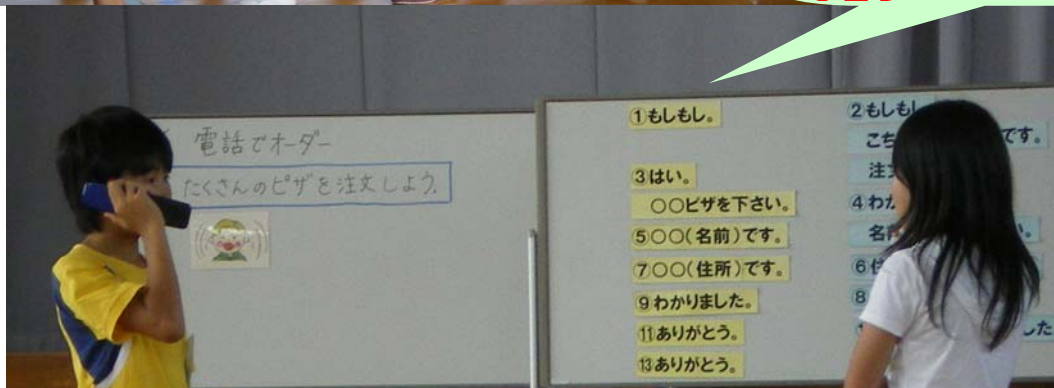
時間	児童の活動	HRT	ALT	援助・評価													
	1. 始めのあいさつをする。 2. 「♪it's a small world」を歌う。 Activities 《写真1 参照》 3. <ul style="list-style-type: none"> ①お客さんとの会話に気をつけて聞いてみよう。 ②会話の練習をしよう。 ・会話に必要なやりとりをALTについて練習する。 ③自分のお店をオープンさせてお客さんの注文の品をサービスしよう。 《写真3 参照》 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めのあいさつをする。 ・歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めのあいさつをする。 ・歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを見て返事ができる。 ・はっきりした声で歌う。 ・会話のスキットを練習する。 ・相手に伝わるようなクリアボイスに気付かせる。 ・お店の人とお客さんとのやりとりを練習する。聞き取って、繰り返す。 ・やりとりの途中で、インイングリッシュやクリアボイスのできているペアを全体に紹介する。《写真2 参照》 ・わからない時には「Help」と言うようにさせる。 													
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の食べたいピザをたくさん注文しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の中に例を取り入れるようにする。 														
		<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">お店の人</th> <th style="width: 50%;">お客さん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2 Hello. This is INAZUMA's pizza. Can I help you.</td> <td>1 Hello.</td> </tr> <tr> <td>4 Yes. Your name please.</td> <td>3 Yes. (a cheese) pizza please.</td> </tr> <tr> <td>6 Your address please.</td> <td>5 My name is Fukuoka.</td> </tr> <tr> <td>8 That will be 800yen.</td> <td>7 I live in Nishiwaki.</td> </tr> <tr> <td>10 Thank you.</td> <td>9 OK.</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10 Thank you.</td> </tr> </tbody> </table>	お店の人	お客さん	2 Hello. This is INAZUMA's pizza. Can I help you.	1 Hello.	4 Yes. Your name please.	3 Yes. (a cheese) pizza please.	6 Your address please.	5 My name is Fukuoka.	8 That will be 800yen.	7 I live in Nishiwaki.	10 Thank you.	9 OK.		10 Thank you.	
お店の人	お客さん																
2 Hello. This is INAZUMA's pizza. Can I help you.	1 Hello.																
4 Yes. Your name please.	3 Yes. (a cheese) pizza please.																
6 Your address please.	5 My name is Fukuoka.																
8 That will be 800yen.	7 I live in Nishiwaki.																
10 Thank you.	9 OK.																
	10 Thank you.																
	4. Comments: 今日の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間のピザ屋の感想を話そう。 5. Greeting <ul style="list-style-type: none"> ・終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に往復しようとした子、その子なりにがんばっていたりした子を紹介する。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インイングリッシュ・クリアボイスを意識してやり取りができた子を紹介する。 ・終わりの挨拶をする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ・電話での会話をインイングリッシュで取り組んでいる。 ・クリアボイスで注文したり、聞いたりしている。 </div>													

② 授業の実際



身振り手振りの英語の歌での導入

表現のよいペアの応対から学び合う



模擬携帯電話を使ってのピザの注文



ALT による終末の評価

4 3年間の取り組みの成果と課題

《成果》

～子どもの姿で～

- ・ 少人数指導の実施により、通常の授業ではなかなか発言できない児童が、少人数に分かれて授業を行うことにより発言する機会が多くなった。児童のノートから



- ・ あまりのある小数のわり算で、はじめてやったときは「あれっ」と思ったけど、すぐ気づいてそれからどんどん考えていくと説明が3つも書けて、初めて算数がおもしろいと思った。
- ・ 今日は発言がたくさんできました。少人数になってから手を挙げるできるようになりました。これからも手を挙げるので当ててください。

- ・ 6年生の「直方体と立方体」のプレテストではさいころとティッシュの箱の面の形や面の数、辺の数や頂点の数などの理解が不十分だった児童が、単元終了時のテストではよく理解できていた。
- ・ 算数の学び方（下記参照）を示したことにより、子どもの中に少しずつ定着し始め、授業に向かう姿勢が前向きになったり、授業の中での話し合い活動が活発になったりするなどの姿が出てきた。

算数の学び方

はやい
かんたん
せいかく
どんなときも

ふりかえりをしよう！

次のことについて、書こう！

- ① 新しくわかったこと
「新しくわかったことは、・・・」
- ② 前に勉強したものと似ていること
「前に勉強したものと似ていることは、・・・」
- ③ 友だちの考えでいいなと思ったこと
「〇〇さんの考えでいいなと思ったことは、・・・」
- ④ 次にやってみたいこと
「次にやってみたいことは、・・・」

①は、必ず書こう。
②～④は、選んで書いてもいいし、書ける人は、いくつか組み合わせて書こう。

問題との出会い

全員で声を出して問題を読む。
①分かっていることは？→赤線
②求めたいことは？→青な線

課題づくり

はっきりさせたい！ 知りたい！

- ・今までと似ている所は？ 違う所は？
- ・式は？ 式ができたわけは？
- ・課題は？

分かっていること、求めたいこと
→7分、11分、全体の大きさ、ま
昨日と共通、違い

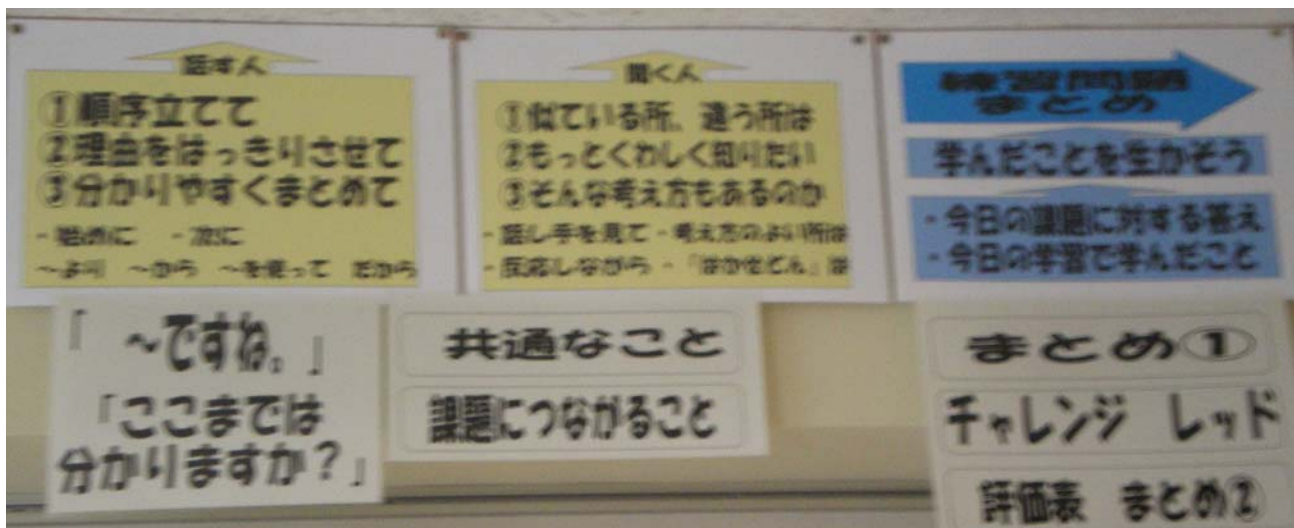
個人追究

自分の力で考えよう

・自分の考えをノートに書く、式、図、表、算
算盤などを活用。
・今までの学習をもとにして、問題を自分で解く。
・他に解いた人がいたら、自分の考えを、

ペア交流 全体交流

仲間と共に高まり合おう



～教師側の姿として～

- 算数の年間指導計画で少人数用の指導計画を作成することができた。
- 少人数教室の掲示を充実することができた。
(今までの学習の足跡としての掲示物をパネル形式で残すことにより移動等がしやすく授業の中でも活用ができた)
- 算数の少人数指導等で取り組んでいる成果等、毎月の職員会の中で交流し共通理解ができた。
- 推進校の山之上小の発表を参観して、自校の実践に生かすことができた



- 授業改善に関わって、いろいろと工夫に試みて、より児童の実態に合う指導方法や学習形態を取り入れて実践がなされていた。授業の内容や学習姿勢の評価カードが工夫されていた。
- 前の時間に行った評価プリントをもとに、そのつまづきに気づかせ、全体に提示する課題とは別に、各自にも具体的に課題を持たせるところが良かった。
- 基本用語プレート（算数の考え方を説明する、約分、分母などの重要語句や公式など）を設置し、その単元だけで一時的に使用するのではなく、長期に使用できる物を作るのが参考になった。
- 練習問題の内容と量が、もっと学習を進めていきたい児童やつまづいている児童に合うように工夫されている点が参考になった。

《課題》

- 授業前にお互いの授業者の打ち合わせはできたが、個に応じた指導が更にできるよう、教材教具の工夫まで打ち合わせをするようにしていきたい。
- 低、中、高のつながりを考えた、系統性のある算数の指導の工夫を図ることが大切である。